

平成29年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた 学習評価の進め方

小学校 国語科

この資料は、平成29年改訂学習指導要領（以下、学習指導要領）に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）の考え方を基に、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における、指導と評価の一体化に向けた取組の推進にぜひお役立てください。

目次

1	学習評価の基本的な考え方	1
2	学習評価の観点	1
3	小学校国語科の目標	2
4	小学校国語科における評価の観点及びその趣旨	3
5	小学校国語科における「内容のまとめり」	4
6	小学校国語科における観点ごとの評価規準作成のポイント及び評価のポイント	4
7	小学校国語科における学習評価の進め方	7
8	小学校国語科における学習評価の事例	8
9	Q & A	22

1 学習評価の基本的な考え方

○学習評価とは

児童生徒の資質・能力を育成するために、目標に照らして児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握すること

○学習評価を行う上で重要なポイント

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価を行うに当たっては、児童生徒一人一人の資質・能力を育成できるようにすることが大前提です。そのためには、児童生徒の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を適切に把握することが必要です。把握した内容は、児童生徒にフィードバックして児童生徒の学習改善につなげられるようにし、教師は自身の指導改善につなげます。このことなくして児童生徒一人一人の資質・能力の育成は望めません。つまり、学習評価を行う上で、「普段の授業の不断の見直し」が不可欠と言えます。

○学習評価の機能

指導に生かす評価・・・児童生徒一人一人の学習状況を把握し、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

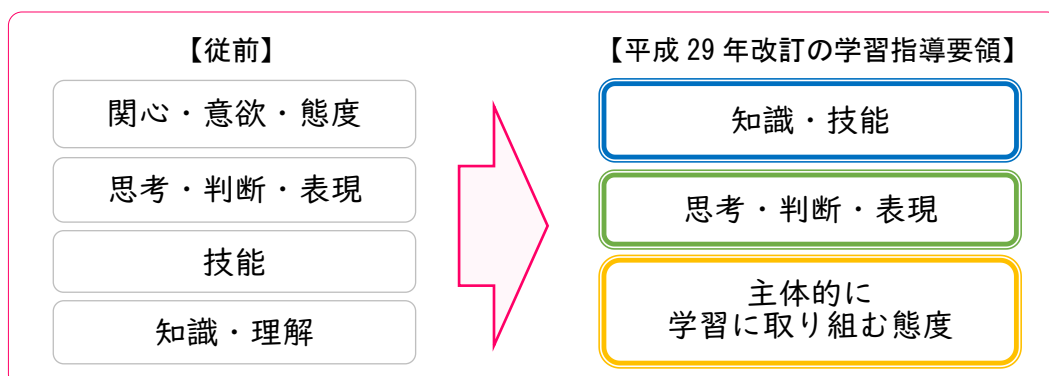
指導に生かす評価の場面は、随時存在します。児童生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

記録に残す評価・・・観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

記録に残す評価の場面は、毎時間設定する必要はありません。児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

2 学習評価の観点

学習指導要領では、各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。目標や内容の整理を踏まえ、小・中・高等学校の各教科を通じて、評価の観点も4観点から3観点到整理されました(下図参照)。



「教科の目標」と「評価の観点」及び「評価内容」との関係は以下の通りです。

【学習指導要領「教科の目標」】

(1)	(2)	(3)
知識及び技能に関する目標	思考力、判断力、表現力等に関する目標	学びに向かう力、人間性等に関する目標

【「評価の観点」及び「評価内容」】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価内容	- 各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能を習得しているか。 - 既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。	各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を、把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか。

評価の観点は「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つです。

3 小学校国語科の目標

学習指導要領において、全ての教科の目標は、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。小学校国語科の目標は次のとおりです。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	知識及び技能	
(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	思考力、判断力、表現力等	
(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	学びに向かう力、人間性等 ※	

各学年の目標は、学習指導要領でご確認ください。

※(3)の「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取することができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分があるとされています。そのため、評価の観点は、「主体的に学習に取り組む態度」と示されています。

4 小学校国語科における評価の観点及びその趣旨

評価の観点は、全教科領域、全学年共通ですが、評価の観点の趣旨は学年ごとに異なります。小学校国語科における評価の観点及びその趣旨は、次のとおりです。

(1) 評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の各領域において，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり，思いや考えを広げたりしながら，言葉がもつよさを認識しようとしているとともに，言語感覚を養い，言葉をよりよく使おうとしている。

(2) 学年別の評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年及び第2学年	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の各領域において，順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもっている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり，思いや考えをもったりしながら，言葉がもつよさを感じようとしているとともに，楽しんで読書をし，言葉をよりよく使おうとしている。
第3学年及び第4学年	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の各領域において，筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり，思いや考えをまとめたりしながら，言葉がもつよさに気付こうとしているとともに，幅広く読書をし，言葉をよりよく使おうとしている。
第5学年及び第6学年	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の各領域において，筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり，思いや考えを広げたりしながら，言葉がもつよさを認識しようとしているとともに，進んで読書をし，言葉をよりよく使おうとしている。

5 小学校国語科における「内容のまとめり」

小学校国語科における「内容のまとめり」は、次のとおりです。

各学年とも、内容は、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の二つの「内容のまとめり」で示されています。これらのまとめりは、さらに次のように分けられています。

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

観点別学習状況の評価を行う際は、学習指導要領の目標や内容を踏まえ、年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。その上で、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて進めます。進め方の例については、小学校国語科の「参考資料」をご確認ください。

6 小学校国語科における観点ごとの評価規準作成のポイント及び評価のポイント

1 観点ごとの評価規準作成のポイント

国語科では、一つの指導事項を年間で複数回繰り返して指導することが多くあります。国語の指導内容は螺旋的・反復的に繰り返しながら、資質・能力の定着を図ることを基本としているため、年間を見通して当該単元の指導目標や単元の評価規準を設定します。

まず、学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解することが重要です。

(1) 「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順

- ① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認します。

「内容のまとめり」

〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	A 話すこと・聞くこと
(2) 情報の扱い方に関する事項	B 書くこと
(3) 我が国の言語文化に関する事項	C 読むこと

「評価の観点」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

※ 〔知識及び技能〕は「知識・技能」、〔思考力、判断力、表現力等〕は「思考・判断・表現」と対応しています。

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

【観点ごとのポイント】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的に、当該学年で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を「～している。」として、評価規準を作成する。 ・育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。 ・指導事項に示された資質・能力を確実に育成するため、基本的には、「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準になる。	・基本的に、当該学年で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を「～している。」として、評価規準を作成する。 ・育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。 ・指導事項に示された資質・能力を確実に育成するため、基本的には、「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準になる。 ・評価規準の冒頭には、当該学年で指導する一領域を「(領域名)において、」と明記する。 例「読むことにおいて、」	・各学年の「目標(3)」を参考にしつつ、必要に応じて、「評価の観点及びその趣旨」(p. 3)を用いて、評価規準を作成する。 ・粘り強い取組を行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面を踏まえ、当該単元で育成する資質・能力と言語活動に応じて作成する。 ・文末は「～しようとしている。」として作成する。

(2) 学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとまりごとの評価規準(例)」

＜例 第1学年及び第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」＞

ア 紹介や説明、報告など、伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動を通した指導の評価規準の例

① 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」

内容のまとまりごとの指導事項を基に、図1のように、評価規準を作成します。

2 学習指導要領 内容	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(1)オ 身近なことを表す語句の量を増し、 <u>話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。</u>	イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考える <u>こと。</u>
評価規準 例	知識・技能	思考・判断・表現
	身近なことを表す語句の量を増し、 <u>話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。</u> ((1)オ)	イ 「 <u>話すこと・聞くこと</u> 」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて話す事柄の順序を <u>考えている。</u> (イ)

部…育成を目指す資質・能力に該当する指導事項を、年間を見通して、観点ごとに選ぶ。
 …部…冒頭に、「話すこと・聞くことにおいて、」と当該学年で指導する一領域を明記する。
 …部…育成したい資質・能力に照らして、「A 話すこと・聞くこと」なので「話の」とする。
 …部…文末を「～こと」→「～している(該当する指導事項)」とする。

図1 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価規準における作成の手順

② 「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、図2の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫して設定することが考えられます。児童が学習を振り返ったり、これまでの学習とつないだりすることができるように設定することが大切です。

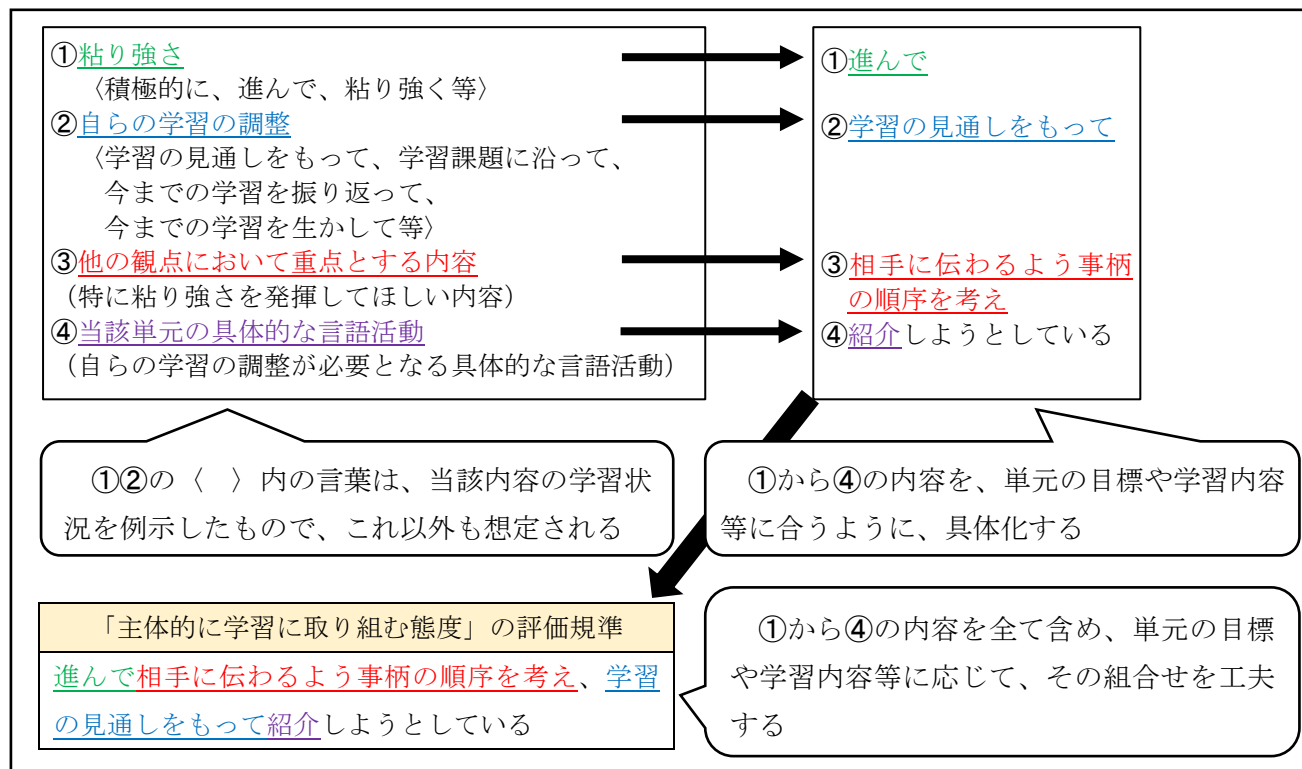


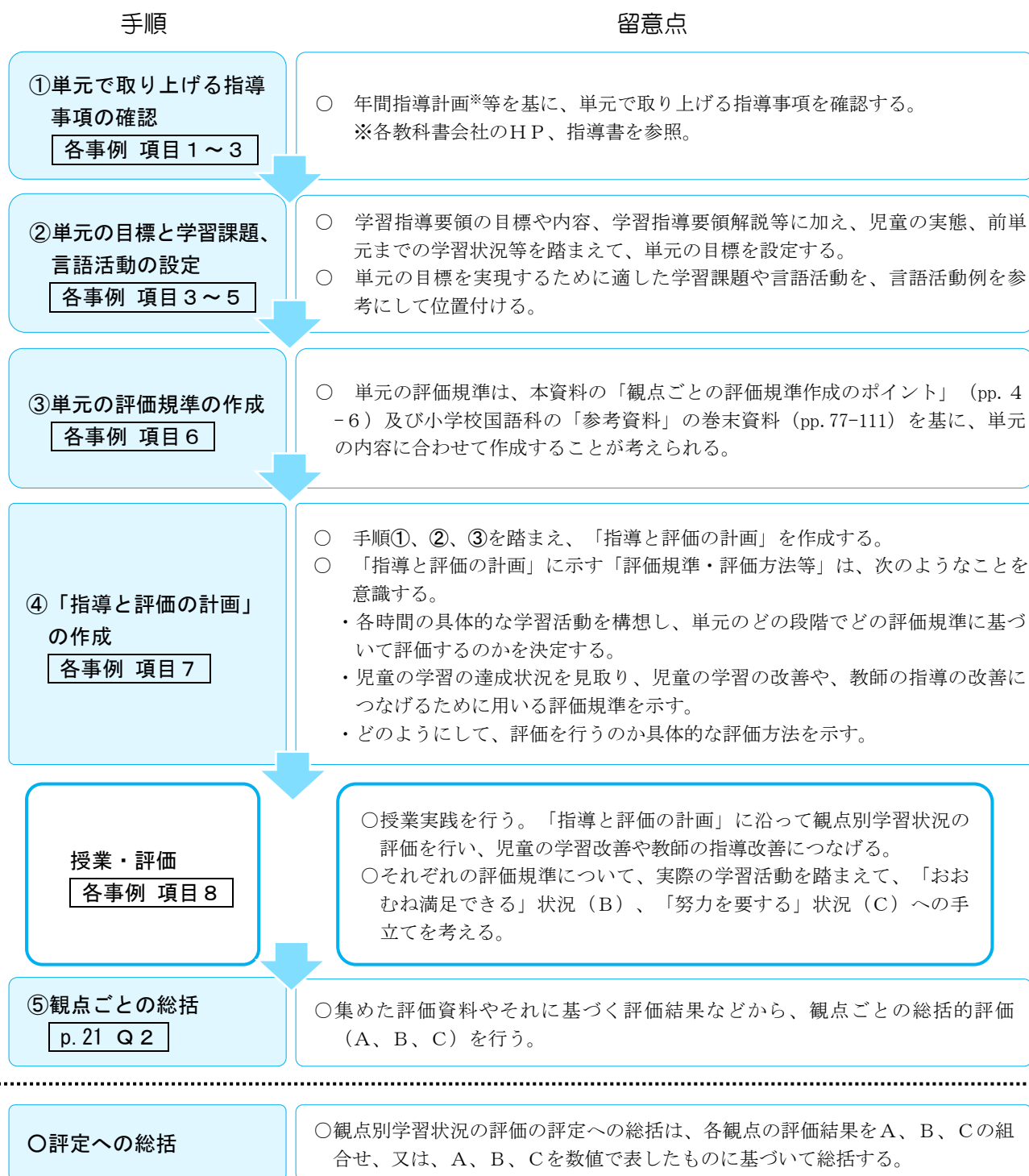
図2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準における作成の手順

2 観点ごとの評価のポイント

観点	観点ごとの評価のポイント（☆）
知識・技能	☆ここでの知識は、単に暗記することに終始するような知識ではなく、日常生活で生きて働く知識として実感的に理解した状況进行评估する。 ☆国語科の特質に応じて、資料を用いて発表をしたり文章による説明をしたりするなど、多様な方法を適切に取り入れる。また、実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
思考・判断・表現	☆「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。 ☆ペーパーテストのみならず、スピーチや報告する文章の作成、グループでの話し合い等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなどの評価方法が考えられる。
主体的に学習に取り組む態度	☆知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという側面を評価する。 ☆国語科の特質に応じて、児童の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮し、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。 ☆ノートやレポートによる記述、授業中の発言、教師による行動観察や児童による自己評価や相互評価等の状況を評価する。

7 小学校国語科における学習評価の進め方

題材における観点別学習状況の評価の進め方は、基本的に次のような流れになります。観点別学習状況の評価を行う際は、まず、学習指導要領の目標や内容を踏まえ、年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。



8 小学校国語科における評価の事例

事例1 キーワード…「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価

1 単元名 「れいの書き方をくふうして、せつめいする文章を書こう」

教材名 「食べ物ひみつを教えます」(光村図書)

2 内容のまとめ

第3学年及び第4学年

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」

3 単元の目標

〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕は、指導事項の文末を「～できる」として示す

(1) 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。〔知識及び技能(1)カ〕

(2) 書く内容の中心を明確にし、内容のまとめで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等B(1)イ〕

(3) 自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等B(1)ウ〕

(4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

「学びに向かう力、人間性等」は、いずれの単元においても、学年の目標である「言葉がもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする」までを示す

4 児童に提示する学習課題

この単元では、れいの書き方をくふうする学習をします。課題は、「すがたをかえる大豆」のくふうと比べて、すがたをかえて食品になる材料について、説明する文章を書くことです。

5 本単元における言語活動

例の書き方を工夫して、姿をかえて食品になる材料について、説明する文章を書く。

(関連する言語活動例：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア)

6 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 (1)カ	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとめで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) ②「書くこと」において、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	① <u>進んで</u> 、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、 <u>学習の見通しをもつて</u> 、説明する文章を書こうとしている。 部…粘り強さ 部…自らの学習の調整

7 指導と評価の計画（全8時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準(・)、評価方法等()
1	○本単元の学習課題と言語活動を知り、学習の見通しをもつ。	・学習課題と言語活動の内容を具体的に示し、児童が学習の見通しをもつことができるようにする。	ここでは、「記録に残す評価」のみを位置付けているが、学習内容を確実に習得できるようにするため、「指導に生かす評価」を単元を通して適宜行う。
2	○材料を決め、調べる。	・色々な食品に姿をかえて食べられている材料の例を示す。 ・必要な情報を見付けられるように、材料や食品について書かれた本や資料を準備する。	
3	○調べた内容を整理する。	・おいしく食べる工夫につながる用語例を示し、調べた内容を整理しやすいようにする。	
4	○文章の組立てを考える。	・説明する文章のモデルを提示して「はじめ」、「中」、「終わり」に書く内容をつかませ、書く内容の中心を明確にして段落を分けられるようにする。 ・作り方が簡単な順、よく食べるものの順など、例の書き方に注意して、文章の構成を考えられるようにする。	【思考・判断・表現①】 ワークシートの記述 ・書く内容の中心を明確にして段落を分けたり、例の書き方に注意したりして文章の構成を考えているかを読み取る。
5	○文章の組立てを友達と読み合う。	・文章の組立てを読み合い、気付いたことを助言し合うよう促す。	
6	○説明する文章を書く。	・おいしく食べる工夫とその具体例を照らし合わせながら、各段落の文章を書くように助言する。 ・「すがたをかえる大豆」における書き方の工夫を提示し、それと比べながら書き表し方を工夫することができるようにする。	
			【知識・技能①】 説明する文章の下書きの記述 ・おいしく食べる工夫とその具体例について段落ごとに分けて書いているかを読み取る。 【思考・判断・表現②】 説明する文章の下書きの記述 ・「すがたをかえる大豆」の書き方と比べながら、

			説明する文章の書き表し方を工夫しているかを読み取る。
7 ・ 8	○下書きを友達と読み合う。 ○下書きを修正し、それを基に清書する。 ○感想を伝え合い、単元を振り返る。	・読み合うときの観点を示し、自分の考えとそれを支える事例との関係が明確になっているかについて、助言し合うよう促す。 ・各段落の内容を分かりやすく伝えるために、清書した文章に必要な絵や写真を加えさせる。 ・自分の考えが伝わるように、書き表し方をどのように工夫したのかを振り返らせる。	【主体的に学習に取り組む態度①】 説明する文章や振り返りの記述・児童の様子を観察 ・友達と読み合う活動を踏まえて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しようとしているかを読み取る。

学習評価を行うに当たって

どの観点を評価するにせよ、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」のいずれにおいても、次の二つのことを念頭に置いて、評価しましょう。

☑授業中の児童の取組の様子、発言やつぶやきの内容、記述内容などから児童の学習状況を見取る中で、評価規準に照らして、「努力を要する」状況（C）になりそうな児童を見だし、適切な手立てを取って「おおむね満足できる」状況（B）となるようにすること。

☑評価結果は、総括のためだけでなく、児童の学習改善と教師の指導改善に生かすこと。

図3に示すように、毎時間児童全員について記録をとることは現実的ではないので、計画的に評価を行いましょう。

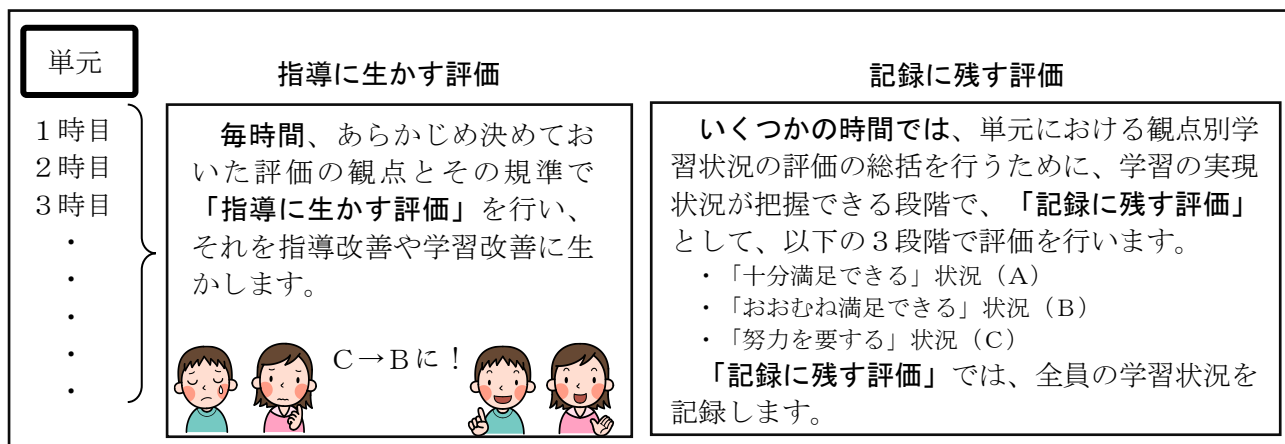


図3 単元における「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」のイメージ

8 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 「知識・技能」の評価

表1 【知識・技能①】における（A）、（B）、（C）の状況

【知識・技能①】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（第5時）		
「十分満足できる」状況 （A）	「おおむね満足できる」状況 （B）	「努力を要する」状況 （C）
おいしく食べる工夫とその具体例を内容のまとまりごとに段落を分けて書き、接続する語句を適切に使って、段落相互の関係を明確に表現している。	おいしく食べる工夫とその具体例を内容のまとまりごとに段落を分けて書いている。	（B）に達していない状況
		手立て（例） ・モデル文の組み立てを基に、各段落に書く内容について確認する。 ・一段落目を教師と一緒に書き、例の挙げ方について具体例を示す。

【知識・技能①】は、下書きの記述を表1の判定の基準を基に評価しました。

「おおむね満足できる」状況（B）の具体例を紹介します。図4に示した児童1が書いた下書きでは、おいしく食べる工夫（図4の____部）とその具体例（図4の____部）を三つの段落に分けて書いています。そのため、「おおむね満足できる」状況（B）としました。

一方、「説明する文章」の下書きの際に指導に生かす評価を行いました。「努力を要する」状況（C）とした児童には、表1のような手立てを行い、「おおむね満足できる」状況（B）に近付くようにしました。

「十分満足できる」状況（A）の具体例を紹介します。例えば、説明する内容に合わせて「まず、次に、また、さらに、このように」などの接続する語句を適切に使って、段落相互の関係を明確に表現している児童は、「十分満足できる」状況（A）としました。

すがたをかえるとうもろこし
……
その形のままだいて食べるくふうがあります。皮をむいたとうもろこしを火にかけ、やき色が付くまでやくと、やきとうもろこしになります。
つぶにしておかんそうさせて食べるくふうがあります。かんそうしたとうもろこしのつぶとあぶらをなべに入れて、ふたをしてかねつします。すると、つぶがはじけてポップコーンになります。
こなにしてお食べるくふうもあります。こなにしたらとうもろこしにしろなどを入れてあじを付け、やいたりあげたりするとおいしいスナックがしになります。
このように……

図4 児童1が書いた下書きの記述

(2) 「思考・判断・表現」の評価

表2 【思考・判断・表現①】における（A）、（B）、（C）の状況

【思考・判断・表現①】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（第4時）		
「十分満足できる」状況 （A）	「おおむね満足できる」状況 （B）	「努力を要する」状況 （C）
書く内容の中心を明確にし、「はじめ」、「中」、「終わり」に分けたり、例の書き方に注意したりして文章の構成を考え、その根拠を説明している。	書く内容の中心を明確にし、「はじめ」、「中」、「終わり」に分けたり、例の書き方に注意したりして文章の構成を考えている。	（B）に達していない状況 手立て（例） ・各段落に書く内容について、モデル文を基に、具体例を示す。 ・ワークシートの中から、どの工夫と食品を取り上げるのかを質問する。

【思考・判断・表現①】は、ワークシートの記述を表2の判定の基準を基に評価しました。

「おおむね満足できる」状況（B）の具体例を紹介します。次頁図5に示した児童2のワークシートでは、〔文章の組立て〕の「はじめ」の部分で説明する材料を紹介しています。「中」の部分で、調べたことを基に、次頁図5の____部のように、牛乳をおいしく食べる工夫と食品を対応するように書き、内容の中心を明確にしたり、例の書き方に注意したりしています。さらに、「終わり」の部分で、次頁図5の____部のように、調べて感じたことの中心をまとめています。そのため、「はじめ」、「中」、「終わり」それぞれの内容の中心を明確にしたり、例の書き方に注意したりして文章の構成を考えていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）としました。

一方、文章の組み立てを考えている場面において指導に生かす評価を行いました。「努力を要する」状況（C）とした児童は、表2のような手立てを行い、「おおむね満足できる」状況（B）に近付くようにしました。

なお、「よく食べるものの順に例を挙げた」「取り上げた材料の姿が分かりやすいものの順に例を挙げた」など、例の書き方の順序について、根拠を説明できている児童を「十分満足できる」状況（A）としました。

〔文章の組立て〕			〔調べたこと〕						
終わり	中	はじめ	・につめる	・こおらせる	・こなにする	・はっこうさせる	・かきまぜる	・味をつける	おいしく食べる工夫
・まとめ おいしく食べるための人々のちえに感心	はっこうさせる・・・ヨーグルト こおらせる・・・アイスクリーム かきまぜる・・・バター ・おいしく食べるくふうと、食品のれい	牛乳 ・ここですつめいするざいりよう	キャラメル	アイスクリーム	粉ミルク	チーズ ヨーグルト	バター	コーヒー牛乳	食品

図5 児童2が書いたワークシートの記述

表3 【思考・判断・表現②】における（A）、（B）、（C）の状況

【思考・判断・表現②】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（第6時）		
「十分満足できる」状況 （A）	「おおむね満足できる」状況 （B）	「努力を要する」状況 （C）
自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして、「すがたをかえる大豆」と比べながら、説明する文章の下書きの書き表し方を工夫するとともに、更に工夫を加えている。	自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして、「すがたをかえる大豆」と比べながら、説明する文章の下書きの書き表し方を工夫している。	（B）に達していない状況 手立て（例） ・「すがたをかえる大豆」の書き方の工夫を提示し、一緒に確認する。 ・選んでいる材料に合う書き方のモデルを提示し、参考にするように助言する。

【思考・判断・表現②】は、下書きの記述を表3の判定の基準を基に評価しました。ここでは「すがたをかえる大豆」の書き方の工夫を生かして書くように指導しました。

「おおむね満足できる」状況（B）の具体例を紹介します。次頁図6に示した児童2が書いた下書きでは、「バター」と「アイスクリーム」と「ヨーグルト」の三つの事例を取り上げ、次頁図6の____部に示した自分の考えとそれを支える三つの事例との関係を明確にしています。また、「中」の部分の各段落において、「すがたをかえる大豆」と比べながら、文章の下書きの書き表し方を工夫しています。まず、次頁図6の____部のように、牛乳をおいしく食べる工夫を書き、次に、次頁図6の____部のように、その工夫について具体例を説明しています。そのため、「おおむね満足できる」状況（B）としました。

一方、説明する文章の下書きをする場面において指導に生かす評価を行いました。「努力を要する」状況（C）とした児童は、表3のような手立てを行い、「おおむね満足できる」状況

(B) に近付くようにしました。

「十分満足できる」状況 (A) の具体例を紹介します。例えば、図7の児童は、図6の____部のことについて、図7の____部のよう、おいしく食べる工夫の具体例についてさらに詳しく説明したり、読み手を引きつけるような表現を用いたりしています。このような児童を「十分満足できる」状況 (A) としました。その他、「すがたをかえる大豆」と比べながら、説明する文章の下書きの書き表し方を工夫したり、更に工夫を加えたりしている児童を「十分満足できる」状況 (A) としました。

いろいろな食品にすがたをかえる牛にゆう
みなさんが給食で飲んでいる牛にゆうは、
そのまま飲むだけでなく、いろいろな食品に
すがたをかえて食べられています。
まず、かきまぜるくふうがあります。牛に
ゆうから作ったクリームをかきまぜてかため
るとバターができます。
次に、こおらせて食べるくふうがありま
す。牛にゆうと牛にゆうから作ったクリーム
にあじをつけて、かきまぜてこおらせるとア
イスクリームになります。
さらにはっこうさせるくふうがあります。
にゆうさんきんという目に見えない小さな生
物の力をかりてはっこうさせると、ヨーグル
トができます。
このように、牛にゆうは、いろいろなすが
たで食べられています。こんなにくふうされ
てきたのは、えいようがほうふでおいしいか
らです。牛にゆうは、そのままおいでにおく
と、すぐくさってします。牛にゆうを長もち
させておいしく食べるくふうをしてきた昔の
人たちのちはすばらしいと感心させられま
す。

図6 児童2が書いた下書きの記述

- ・おいしく食べる工夫の具体例をより分かりやすくするために、「さとうやたまご、くだものなど」と、詳しい説明を加えている。
- ・以前に学習した相手に呼び掛けるような文を加えることで、読み手を引き付けるようにしている。

次に、こおらせて食べるく
ふうがあります。牛にゆうと
牛にゆうから作ったクリーム
にさとうやたまごを入れて、
くだものなどで味をつけま
す。その後、てい温でかきま
ぜて空気を入れてこおらせ
るとアイスクリームになりま
す。家で自分で自分の好きな味
で作ることもできますよ。

図7 (A)と判断する状況の一例

事例2 キーワード…「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価

1 単元名 「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう」

教材名 「やまなし」「イーハトーヴの夢」(光村図書)

2 内容のまとめ

第5学年及び第6学年

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」

3 単元の目標

- (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。〔知識及び技能(1)ク〕
- (2) 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等C(1)エ〕
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを紹介カードにまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力等C(1)オ〕
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 児童に提示する学習課題

この単元では、表現の効果や物語の全体像について、自分の考えをもつ学習をします。課題は、「やまなし」の二つの場面を比べたり、「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を関連付けたりして、それぞれの場面の情景や作品に込められた作者の思いから、自分が感じたことをまとめた「やまなし」の紹介カードを書くことです。

5 本単元における言語活動

それぞれの場面の情景や作品に込められた作者の思いから、自分が感じたことをまとめた「やまなし」の紹介カードを書く。

(関連する言語活動例：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ)

6 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1)ク)	①「読むこと」において、表現の効果を考えたり、物語の全体像を想像したりしている。 (C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C(1)オ)	①積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて、 <u>学習課題に沿って</u> 、紹介カードを書こうとしている。 部…粘り強さ 部…自らの学習の調整

7 指導と評価の計画（全8時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準(・)、評価方法等()
1	○本単元の学習課題と言語活動を知り、学習の見通しをもつ。 ○「やまなし」を読み、内容の大体を捉える。	・教師が作成した紹介カードのモデルを提示し、児童が言語活動のイメージをもつことができるようにする。 ・「5月」と「12月」の谷川の様子を簡単な絵や図に表すことで、児童が内容の大体を捉えられるようにする。	ここでは、「記録に残す評価」のみを位置付けているが、学習内容を確実に習得できるようにするため、「指導に生かす評価」を単元を通して適宜行う。 [知識・技能①] ノートの記述 ・ 比喻や反復などの表現を抜き出し、その工夫についてまとめることができるかを読み取る。 [思考・判断・表現①] ノートの記述 ・ 「5月」と「12月」を比べて、物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりしているかを読み取る。 [思考・判断・表現②] 紹介カードの下書きの記述 ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を関連付けながら、自分の考えを紹介カードに書いているかを読み取る。
2	○「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を知る。	・ 宮沢賢治の言動を整理し、宮沢賢治の生き方や考え方をまとめられるようにする。	
3	○「5月」の谷川の情景や出来事を想像しながら読む。	・ 谷川の様子やかたの親子の言動に着目させることで、谷川の情景や出来事を想像しながら読むことができるようにする。	[知識・技能①] ノートの記述 ・ 比喻や反復などの表現を抜き出し、その工夫についてまとめることができるかを読み取る。 [思考・判断・表現①] ノートの記述 ・ 「5月」と「12月」を比べて、物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりしているかを読み取る。 [思考・判断・表現②] 紹介カードの下書きの記述 ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を関連付けながら、自分の考えを紹介カードに書いているかを読み取る。
4	○「12月」の谷川の情景や出来事を想像しながら読む。		
5	○「5月」と「12月」を比べて読み、表現の効果を考えたり、物語の全体像を想像したりする。	・ 作品全体を通して、共通して扱われている内容を見付けさせることで、児童が物語の全体像を考えられるようにする。 ・ 「5月」と「12月」を比べて、対比されているものや比喻、擬音語や擬声語を見付けさせることで、表現の効果を考えられるようにする。	[思考・判断・表現①] ノートの記述 ・ 「5月」と「12月」を比べて、物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりしているかを読み取る。 [思考・判断・表現②] 紹介カードの下書きの記述 ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を関連付けながら、自分の考えを紹介カードに書いているかを読み取る。
6	○「やまなし」の紹介カードの下書きを書く。	・ 紹介カードのモデルを提示することで、紹介カードに書く内容を確認する。 ・ 「やまなし」の内容と「イーハトーヴの夢」で書かれている作者の生き方や考え方を関連付けて、自分の考えを書くよう助言することで、「やまなし」に込	

		められた作者の思いを考えられるようにする。 ・心に残った理由を文中の言葉を用いて説明するよう助言する。	
7 ・ 8	○「やまなし」の紹介カードについて、グループで交流する。 ○交流を踏まえて、よりよい表現を用いて紹介カードを清書する。 ○清書されたものを読み、単元を振り返る。	・発表をする際には、心に残ったところを教科書で示しながら紹介カードを説明することで、友達に分かりやすく伝えられるようにする。 ・友達の紹介カードを読む時の観点を示し、観点に沿って、交流ができるようにする。	[主体的に学習に取り組む態度①] 紹介カードや振り返りの記述・児童の様子を観察 ・交流を踏まえて、よりよい表現を用いようとしているかを読み取る。

8 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 「思考・判断・表現」の評価

表4 【思考・判断・表現①】における（A）、（B）、（C）の状況

【思考・判断・表現①】 「読むこと」において、表現の効果を考えたり、物語の全体像を想像したりしている。（第5時）		
「十分満足できる」状況 （A）	「おおむね満足できる」状況 （B）	「努力を要する」状況 （C）
「やまなし」において、表現の効果を考えたり、全体像を想像したりしたことをノートに具体的に書いている。	「やまなし」において、表現の効果を考えたり、全体像を想像したりしたことをノートに書いている。	（B）に達していない状況 手立て（例） ・「5月」と「12月」を比べて、対比的に表現されている具体例や共通している内容の具体例を示す。 ・ノートにまとめた表現からどのような印象を受けるのかを質問する。

【思考・判断・表現①】は、ノートの記述を表4の判定の基準を基に評価しました。

「おおむね満足できる」状況（B）の具体例を紹介します。次頁図8に示した児童1が書いたノートでは、「5月」と「12月」を比べ、次頁図8の____部の「かわせみ」と「やまなし」のように、対比的に表現されているところが書かれています。次に、「5月」と「12月」の対比的に表現されている箇所から、次頁図8の____部のように「するどい感じがする表現」と「やわらかい感じがする表現」とそれぞれの表現の効果を書いています。そして、物語の全体像を次頁図8の____部のように「命をテーマにしている」と想像し、その視点で、「5月」と「12月」の様子をそれぞれ「暗く冷たい」と「明るく温かい」と書いているため、「おおむね満足できる」状況（B）としました。

それぞれの児童が自分の考えをまとめているときに指導に生かす評価を行いました。「努力を要する」状況（C）とした児童には、前頁表4のような手立てを行い、「おおむね満足できる」状況（B）に近付くようにしました。

「十分満足できる」状況（A）の具体例を紹介します。例えば、図9の児童は、図8の_____部について、図9の_____部のように、「やまなし」の全体像について想像したことを具体的に書いています。このような児童を「十分満足できる」状況（A）としました。その他、表現の効果を考えたり物語の全体像を想像したりしたことを、具体的に書いていると判断した児童を「十分満足できる」状況（A）としました。

五月	・かわせみ ・青光りのまるでぎらぎらす - る鉄ぼうだまのようなもの ・コンパスのように黒くが - っている ・いきなり飛びとんできた ・日光 ・青白い水 ・こわいよ、お父さん
十二月	・やまなし ・きらきらつと黄金のふち ・黒い丸い大きなもの ・トブン ・ぼかぼか ・月光 ・青白いほのお ・おいしそうだね、お父さん

○まとめてみよう

五月は「とがる」や「こわい」、「いきなり飛びこむ」のよう
なすどい感じがする表現が多く使われていると思った。十二月
は「丸い」や「トブン」、「おいしそう」のような、やわらかい
感じがする表現が多く使われていると思った。

「やまなし」は、命をテーマにしていると感じた。その視点で
五月と十二月を比べると、五月の様子は暗く冷たく、十二月の様
子は、明るく温かい感じがした。

図8 児童1が書いたノートの記述

・五月における暗く冷たい様子について、命が奪われる様子を具体的に書いたり、十二月における明るく温かい様子についてやまなしが自然に落ちている様子を具体的に書いたりしている。

○まとめてみよう

……

「やまなし」は、命をテーマにしていると感じた。五月は、クラムボンが殺されたり魚がかわせみに殺されたりして、命がうばわれる様子が伝わり、暗く冷たいと思った。しかし、十二月は、やまなしが落ちてしまうところから、じゅくしたやま上つてくるところから、落ちてくる様子や、やまなしが自然に落ちている様子が伝わり、明るく温かい感じがした。

図9 (A)と判断する状況の一例

表5 【思考・判断・表現②】における（A）、（B）、（C）の状況

【思考・判断・表現②】		
「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。		
(第6時)		
「十分満足できる」状況 (A)	「おおむね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C)
「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を関連付けながら読み、理解したことに基づいて、自分の考えを具体的に書いている。	「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を関連付けながら読み、理解したことに基づいて、自分の考えを書いている。	(B)に達していない状況
		手立て(例) ・「やまなし」の情景や「イーハトーヴの夢」に書かれている作者の考え方を教師と一緒に確認する。 ・「やまなし」と「イーハトーヴの夢」とを読み比べた感想を質問する。

【思考・判断・表現②】は、紹介カードの下書きの記述を表5の判断の基準を基に評価しました。

「おおむね満足できる」状況(B)の具体例を紹介します。図10に示した児童2は、心に残った場面について、対比的に表現されている「かわせみが落ちてきたとき」と「やまなしが落ちてきたとき」を取り上げて説明しています。「やまなし」の心に残った場面と「イーハトーヴの夢」の内容を関連付けながら読んで理解したことから、自分の考えを第四段落に書いていることが分かります。そのため、「おおむね満足できる」状況(B)としました。

一方、紹介カードの下書きをしているときに、指導に生かす評価を行いました。「努力を要する」状況(C)とした児童には、表5のような手立てを行い、「おおむね満足できる」状況(B)に近付くようにしました。

「十分満足できる」状況(A)の具体例を紹介します。例えば、図11の児童は、図10の___部について、図11の___部のように、「イーハトーヴの夢」に表れている作者の考え方を詳しく書いています。そのため、「十分満足できる」状況(A)としました。

私が心に残ったのは、落ちてきたやまなしをかにの親子が追いかけるところです。五月にかわせみが落ちてきたときには、二ひきのかには、「まるで声も出ず、居すくまって」のように、こわがっている様子が伝わりました。しかし、十二月にやまなしが落ちてきたときには、「その横歩きと底の黒い三つのかげ法師が六つおどるようにして、やまなしの円いかげを追いました」とあるように、かにたちが喜ぶ様子が思い浮かび、五月のかにの様子を比べて、十二月のその様子が強く心に残りました。

「イーハトーヴの夢」に書かれていた作者の考え方が「やまなし」にも表れていると思いました。

私は、五月には、春で明るく温かい印象があり、十二月には、冷たく暗い印象がありました。やまなしを読んだその印象が変わりました。これから、物事の特ちょうを、色々な角度から見て、しっかりとつかみたいと思いました。

図10 児童2が書いた紹介カードの下書き

・強く心に残りました。

作者は、「やまなし」の中で、「イーハトーヴの夢」に書かれていたように、気候の特ちょうを色々な角度から見、しっかりとつかむことの大切さや自然の美しさに対する思いのようなど自分の考え方を、五月と十二月の情景に込めたいと感じました。

私は、五月には、春で明るく温かい印象があり、

図11 (A)と判断する状況の一例

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

表6 【主体的に学習に取り組む態度①】における（Ａ）、（Ｂ）、（Ｃ）の状況

【主体的に学習に取り組む態度①】		
積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて、学習課題に沿って、紹介カードを書こうとしている。（第7・8時）		
「十分満足できる」状況 （Ａ）	「おおむね満足できる」状況 （Ｂ）	「努力を要する」状況 （Ｃ）
自身の紹介カードの下書きを自ら見返して、進んでよりよくしようとしたり、友達や教師に自身の修正状況を説明して積極的に助言を求めたりしている。	これまでの学習や友達の意見を参考にしながら、自身の紹介カードをよりよくしようとしている。	（Ｂ）に達していない状況 手立て（例） ・これまでのワークシートやノートに書かれている内容を何度も読み返すように助言する。 ・交流における友達の意見や教師の助言を再確認させ、紹介カードをよりよくするように促す。

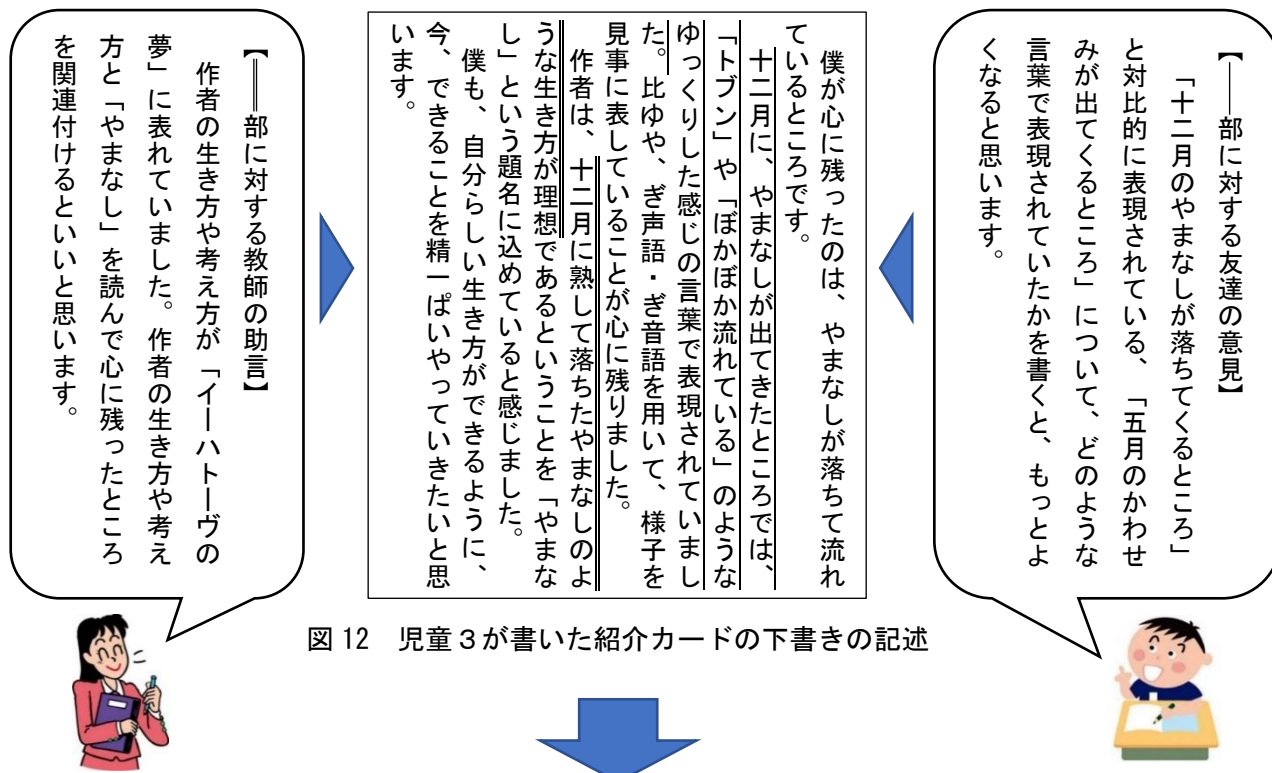
【主体的に学習に取り組む態度①】は、紹介カードや振り返りの記述、児童の様子を表6の判定の基準を基に評価しました。

その際、状況を十分確認することができない児童については、必要に応じて問い掛けるなど、紹介カードや振り返りの記述の理由を確認しながら評価しました。

「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の具体例を紹介します。児童3は、次頁図12のような下書きの記述をしていましたが、友達の意見や教師の助言に基づいて、次頁図13の_____部のように、「5月」のかわせみと「12月」のやまなしを比べて、作品で描かれている情景を想像したり、次頁図13の_____部のように、「イーハトーヴの夢」に表れている作者の生き方や考え方に注目したりして、紹介カードを書こうとしていると判断し、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）としました。

一方、交流後の様子で指導に生かす評価を行いました。「努力を要する」状況（Ｃ）とした児童には、表6のような手立てを行い、「おおむね満足できる」状況（Ｂ）に近付くようにしました。

「十分満足できる」状況（Ａ）の具体例を紹介します。学習課題を強く意識し、友達の意見や教師の助言だけでなく、自分から進んで自主的に紹介カードの下書きを見返して、よりよくしようとしたり、友達や教師に自身の修正状況を説明して積極的に助言を求めたりしていることが、児童の様子や紹介カードや振り返りの記述から確認できる児童は「十分満足できる」状況（Ａ）としました。その他、進んでこれまでの学習を振り返りながら、紹介カードを書こうとしている児童も「十分満足できる」状況（Ａ）としました。



僕が心に残ったのは、やまなしが落ちて流れているところです。

五月に、かわせみが出てきたところでは、「ぎらぎらする鉄砲だま」や「コンパスのように黒くのがっている」のようなずるとい感じがする言葉で表現されていました。しかし、十二月に、やまなしが出てきたところでは、「トブン」や「ぼかぼか流れている」のようなゆっくりとした感じの言葉で表現されていました。比ゆや、ぎ声語・ぎ音語を用いて、様子を見事に表していることが心に残りました。

「イーハトーヴの夢」の中に、「イーハトーヴの物語を通して追い求めた理想は、人間がみんな人間らしい生き方ができる社会だ。」という言葉がありました。作者は、十二月に熟して落ちたやまなしのように、その生き物らしい生き方ができる社会が理想であるということを「やまなし」という題名に込めていると感じました。

僕も、自分らしい生き方ができるように、今、できることを精一ぱいやっていきたいと思います。

図 13 交流や教師の助言を基に児童 3 が修正した紹介カードの記述

Q 1 「話すこと・聞くこと」の評価をするときに、どのようなことに気を付ければよいでしょうか。

A 「話すこと・聞くこと」において、一斉に活動している児童の様子を一人の教師が把握することは困難です。そのため、活動の様子を撮影したり、書く活動を取り入れたりし、活動の様子を適切に見取ることが大切です。

例えば、次のような方法が考えられます。

- ・活動の様子をビデオカメラやタブレット端末等で撮影する。
- ・話す事柄が書かれたカードを操作している様子を観察し、どのような意図に基づいて操作しているのかを児童に質問する。
- ・時間的な順序や事柄の順序を考えているかどうかをワークシートの記述内容から評価する。
- ・ワークシートの記述と話し手が話した内容を照らし合わせて、話の内容を捉えて聞くことができたかどうかを評価する。

Q 2 観点別学習状況の評価をどのように総括したらよいでしょうか。

A 各事例の「7 指導と評価の計画」に示したように、時間や学習活動のまとまりごとに、単元の評価規準に基づいて、その実現状況の評価します。その上で、時間や学習活動のまとまりごとに行った評価結果を総括します。

適切に評価を総括するために、例えば、次のような方法が考えられます。

- ・時間や学習活動のまとまりごとの児童の学習状況を、下の表7のような一覧表にまとめておく。
- ・単元の中で重点的に指導及び評価する指導事項に該当するものに印を付け、評価結果を総括する際の参考にする（表7内※1）。
- ・時間や学習活動のまとまりごとに、「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の様子を具体的に記録しておく（表7内※2）。
- ・「努力を要する」状況（C）と判断した児童に、その様子と教師が行った指導を記録し、「おおむね満足できる」状況（B）を実現することができるようにする（表7内※3）。

表7 一覧表（「話すこと・聞くこと」）の例

評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
単元の評価規準 （※◎印は重点）		①	②	①（※ ¹ ◎）	②	①	②
時間		2・3・4		2・3・4	5・6・7	2・3・4	
評価方法		カード		ワークシート	ワークシート	観察・ ワークシート	
評価	児童1	B	B	C→B	B	B	B
				※ ³ 伝えたい内容が相手に伝わるための順序を教師と一緒に検討			
	児童2	B	B	A	B	B	B
				※ ² 聞き手に伝えるための効果的な表現について記述あり			
	児童3	A	A	A	A	A	A
		※ ² 見たことやしたことについて思ったことを加えていたり、様子を表す言葉を用いたりしている		※ ² 聞き手に与える印象の記述あり	※ ² 自分の経験と関連付けた感想あり	※ ² 友達のカードの並び方について助言あり	

参考資料

- ・ 国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校国語』
令和2年6月 東洋館出版社
- ・ 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 平成29年7月
東洋館出版社
- ・ 国立教育政策研究所 『学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編』 令和元年6月
- ・ 文部科学省 『H29・30年度改訂の学習指導要領下における学習評価に関するQ&A』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/qa/1421956.htm
- ・ 文部科学省 『[別紙4]各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学校）』
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1415195.htm
- ・ 光村図書 『年間指導計画・評価計画資料』
https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s_kokugo/keikaku/index.html
- ・ 東京書籍 『令和2年度 年間指導計画作成資料』
<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/list/keikaku.html>
- ・ 学校図書 『小学校 国語 年間指導計画作成資料』
<https://gakuto.co.jp/kyokasyo/15s-kokugo/>
- ・ 教育出版 『令和2年度版小学校教科書 年間指導計画・評価計画（案）』
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/tokushu/post-22.html>